

第3回札幌市行政評価委員会

会 議 録

日 時：2019年11月5日（火）午前9時30分開会
場 所：札幌市役所本庁舎 12階 5号会議室

1. 開 会

●蟹江副委員長

本日、石井委員長のご都合が悪くなられたということですから、かわりに進行させていただきます。

それでは、定刻になりましたので、第3回札幌市行政評価委員会を始めたいと思います。

2. 議 事

●蟹江副委員長

早速、議事に入らせていただきたいと思います。

議事1番目の今後の進め方について、事務局からご説明をお願いいたします。

●推進担当係長

それでは、1枚おめくりいただきまして、資料1をごらんください。

まず、今後の進め方の案をお示しさせていただきます。

さきに行いました事業ヒアリング、市民ワークショップでのご意見を踏まえまして、本日は、今年度の指摘の方向性や内容を確認させていただきたいと思っております。

その後、本日のご議論の中で、再度、原局に確認したいことが生じるようなことがございましたら、再ヒアリングを11月中旬ごろまでに調整させていただければと考えております。

なお、過去3年間は、再ヒアリングを開催しておりません。

その後、第4回委員会は、12月中旬ごろの開催を検討しておりまして、本日のご議論の結果を踏まえ、最終の報告書に近い形で内容をご確認いただくことを予定しております。

来年1月ごろに、市長への外部評価報告書の手交を予定しております。

事務局からは以上になります。

●蟹江副委員長

ただいまのご説明で、何かご質問、ご意見等はございますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

●蟹江副委員長

それでは、再ヒアリングをどうするかは、今日の議論に基づくことになるので、最後に確定したいと思います。

議事2番目のこれまでの委員会審議と指摘事項についても、事務局からご説明をお願いいたします。

●推進担当係長

それでは、資料を1枚おめくりいただきまして、A4判横の資料2-1をごらんください。

今回は、前回のご議論等を踏まえまして、合計で五つの指摘事項案をまとめさせていただきます。

順に、ご説明させていただきたいと思います。

まずは、施策4-2、魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進関連のヒアリングにおいてご議論いただいた意見に基づく指摘案のご説明をさせていただきます。

まず、1点目の指摘としまして、札幌市交響楽団運営補助事業に関するものでございます。

補助金に関して、予算にあわせて使用している側面があるのではないかと、補助金を出していることが前提となってしまうのではないかといったご意見をいただきました。

これらを踏まえ、補助金のあり方に関する指摘として、「補助金に関して、その目的や効果、必要性などを引き続き検討した上で、多角的な視点から補助金の在り方について検証を行うこと」という指摘案を上げさせていただきました。

次に、2点目の指摘ですけれども、歴史的資産活用推進事業、文化財施設保全事業、両事業に関するものです。

ヒアリングの中では、文化財などの魅力あるものについて、どのように保存し、発信していくかが非常に重要というご意見がありました。

これを踏まえ、文化財に関する情報発信に係る指摘として、「文化財の保存を行うにあたっては、文化財をまちづくりに生かしていくための手法の検討も含め、より一層、文化財の魅力についての情報発信に取り組むこと」というふうにさせていただきます。

資料を1枚おめくりいただきまして、続きまして、施策5-1、世界の活力を取り込む国際戦略の積極展開関連の指摘でございます。

市内企業の海外への輸出や海外展開の支援に関する各事業につきましては、市内の企業は輸出に対する意識が消極的、マインドは弱いといったご指摘をいただきました。

また、輸出の仕組みを企業などに対して周知していく必要があるといったご意見もいただきました。

そして、施策全般に対するご意見としましては、札幌市の経済において、非常に重要な施策であることから、どのように強化するかを考えてほしいといったご意見もありました。

こういったことを踏まえまして、「市内企業の積極的な海外進出の促進に向け、現状の検証を行った上で、マインドの醸成や輸出手続き支援など、企業への支援方法や周知方法について検討すること」という指摘案とさせていただきます。

資料を1枚おめくりいただきまして、続きまして、資料2-3、施策6-2、誰もが活躍できる社会の実現関連でございます。

女性活躍推進に関する指摘が2件あります。

女性活躍推進に関しましては、後ほどご説明いたしますけれども、8月、9月に行い

ました市民参加ワークショップのテーマでもございました。

まずは、女性社員の活躍応援事業に関しまして、女性のキャリア継続に関するセミナーなどは、どういったふうにセミナー参加をアピールするか、企業に対して必要性をアピールしていくか、発信が課題ではないだろうかというご意見をいただきました。

こちらを踏まえまして、広報に関する指摘として、「セミナー等の事業の実施にあたっては、市民に対する広報のみならず、企業への訴求も含めた効果的な広報について、引き続き検討すること」という指摘案とさせていただきます。

続きまして、女性活躍推進施策に係る全般についてでございますが、他部署との連携について、具体的にどのように実現するのか、さらに検討が必要というご意見をヒアリングの場でいただいております。

これを踏まえまして、もう一つの指摘としまして、「他部署との連携の実現に向け、庁内における女性活躍推進の意識醸成を、より一層進めること」とさせていただきます。

続きまして、札幌市シルバー人材センター運営費補助事業に関してです。

こちら、補助金のことに関するものでありまして、指摘としましては、先ほど冒頭で説明させていただきました札幌市交響楽団運営補助事業と同じ指摘となりますけれども、「補助金に関して、その目的や効果、必要性などを引き続き検討した上で、多角的な視点から補助金の在り方について検証を行うこと」とさせていただきます。

説明は以上となります。

指摘案について、ご議論のほどをお願いできればと思います。

●蟹江副委員長

それでは、ただいまご説明いただきました指摘案につきまして、ここが今日の一番大事なところですから、少し時間をかけます。

何かご意見、ご質問をよろしく申し上げます。

●篠河委員

前回、出ていないため、議事録だけを拝見しているので、誤解している部分があるかもしれませんが、最後の札幌市シルバー人材センターのところでは、当初から環境や状況が変わってきているので、支援方法の検討が必要ということが議論の中にあっただと思うのです。逆に、補助金に関してというお話より、そっちのほうが多かったような気がするのですが、その辺はいかがでしょうか。

●推進担当係長

シルバー人材センターに関しましては、ご議論の中では、そのあり方について、いろいろご議論があったところです。事業としては、シルバー人材センターに補助金をお渡ししているものとなり、補助金交付に関する要件から、必要なお助言はできると思うのですが、あり方そのものについては、シルバー人材センター本体で、ご議論、ご検討いただくべきものとも考えます。

ただ、もちろん、補助金を交付するに当たっては、補助金の目的にかなう団体であったり、事業でなければなりませんので、そういった趣旨のことを指摘に盛り込んでいくというのは、ご意見として有効かと考えます。

●吉田委員

私も、今の後半のお話のままだと思うのですが、あり方自体を指摘しなければ、余り意味がないと思います。逆に言うと、補助金を出しているのだから、中身はご自分たちで考えてくださいというのは非常に無責任な指摘のように感じます。そこは、今のお話を聞いて、前に議論していたところを少し盛り込んでもいいのかなと思いました。札幌市は補助金を出すだけなので、中身に関しては指摘すべきではないという意見自体がおかしいように思います。

●推進担当係長

そうしましたら、例えば、ヒアリングの中でご議論があったあり方のことも含めて検討した上でというようなことを少し盛り込むような指摘案にいたしますか。

●吉田委員

それは、今ここで検討すればいいのではないですか。

●推進課長

公益社団法人として独立している団体なものですから、あり方と申しますよりも、札幌市が期待する姿という表現のほうがよろしいかと思います。札幌市が期待するシルバー人材センターの姿であるとか、札幌市との関係性など、その整理をした上で、補助金を、どれぐらいの額を、どういうふうに使っていただくことに期待すると。

●吉田委員

こうしなさいということではなくて、それでもいいと思います。

●篠河委員

いいと思います。

●上岡委員

多分、補助金を交付するところは、期待する姿、あるべき姿であってくれるからこそ補助金につながっていくと思うのです。

●蟹江副委員長

指摘というのは補助金を出す原局に対する指摘になりますので、ただ単に補助金を出せばいいということではなくて、原局できちんとシルバー人材センターのあり方を検討した上で補助金を出すことをこちらから指摘するという形になると思います。

●上岡委員

恐らく、シルバー人材センターのあり方という点においては、この間の議論でもそうですし、今、篠河委員からご指摘いただいたように、設立当時の状況と現状が時代の変化でかなり変わってきているのではないかというところも踏まえてご検討いただく必要があると思います。

●蟹江副委員長

そこのところを指摘する、盛り込むことは必要だと思います。

●吉田委員

多分、今のことも「その目的や成果、必要性」ということで、書いてはあるのですよね。

●上岡委員

そうですね。少しわかりやすくすればいいと思います。

●推進担当係長

具体的に踏み込んだほうがわかりやすいでしょうか。

●篠河委員

そうですね。

●蟹江副委員長

ほかにいかがでしょうか。

●吉田委員

そういう意味では、海外進出企業育成支援事業も、まさにこのとおりなのですけれども、より具体的にイメージできるようにしたほうがいいと思います。

今の海外の輸出は、物を輸出するだけではとどまらなくなっているというか、やはり物の輸出だけではもう立ち行かなくなっているのが現状だと思うのです。逆に言うと、ノウハウの輸出や現地パートナーとコラボした輸出を考えていかないと、今、現実的に難しくなっているのが現状なので、そういうことを少し提示してあげた上でこういう指摘をしないと、余りにも漠としているというか、何から取りかかるのという感じがするのです。ですから、物の輸出だけではなくてというところを少し盛り込んだらいいかなという気がします。

実際、道外の企業では、完全にノウハウを現地企業に提供して、その現地企業とともに、ビジネスをやっていくなんていうことが当たり前になってきているのです。一方で、道内の輸出支援は、テストマーケティングばかりやってきた時代が続いていて、現状から遅れをとっているような気がするのです。そういう、今、日本で進んでいる事例なんかを少し織り交ぜながら指摘できるのだったらとてもいいのかなという気がします。

難しいのかもしれないですが、それが何となく気になりました。全体的にどうしてもしようがないのですけれども、すごく大枠で、どうとでもとれるような指摘になっているのが非常に気になります。

●蟹江副委員長

アイデアそのものを我々が言うべきかどうか、わかりませんが、例えば、こんなことというようなアイデアを引き出すきっかけになるような、何か具体的な事例や方向性があれば、受け取る側もどういう方向で誘導すればいいかがわかりやすいかなと思います。

ただ、こちらから出すのも、なかなか難しいかもしれませんね。

●吉田委員

例えば、国といっても、あらゆる国があって、国によってニーズが全然違います。ですから、「現状の検証」を少し膨らませて、今、北海道が力を入れているASEAN諸国のニーズをしっかりと把握し、それから、先進事例なども調査した上で、札幌市の企業にとって有益な輸出支援を行っていくようにみたいな指摘をしたらどうかと思います。

こちら側の考えだけではどうにもならないところがあると思うので、例えば、その「現状の検証」のところには、そんなことをつけ加えるのはいかがかなという気がしました。

●蟹江副委員長

これだと手続的なところに少し寄ってしまっている感じもありますので、そこら辺を膨らませるといいかもしれませんね。

●推進課長

現状ですが、さっぽろ産業振興財団では、食を中心とした輸出支援を行っております。そのほかにも、例えば、ICT系の企業がオフショアという形で、ベトナムの企業とコラボする支援もしているのですが、実際には、もう一本釣りで、特定の企業にこういうことをやってみませんかというお声がけをして、そういう事例をつくっていつているのが現状かと思います。広く周知して、こういった補助金を用意しますよといった補助メニューなんかもあるのですが、手挙げをしていただける企業がやはり少ないという現状がございます。こちらの書きぶりは足りないのですが、経済観光局の立場としては、やはりそのマインドや、そこにどれだけのマーケットが広がっているかというところを理解してもらうというのが重要かと考えているところだと思うのです。

私も、2カ所前に、ちょうど、さっぽろ産業振興財団で輸出の支援をさせていただいていたのです。私がやっていたのはコンテンツ系の輸出で、物とはまた違う形で、映像などの輸出の支援をさせていただいていたのです。さまざまな形で輸出の支援をやっていっていますが、その中でネックになってくるのは、それぞれの国へのローカライズであるとか、それぞれの国の法体制に対応した輸出の手続支援です。

こちらは、具体的な書きぶりが足りないのですが、どうしてもそのマインドの醸成と手続の支援が中心になってくるのが一つございます。あとは、手を挙げていただける企業が少ないので、個別にお声かけをして、例えば、ベトナムなら、一緒にベトナムに行って、向こうのIT企業と懇談をしてみようというところから始めたりするのです。恐らく現状の課題も、ある程度、検証、検討はしていると思うのです。ただ、それをなかなか書き切れないところがあるというのが現実です。

●吉田委員

おっしゃったように、やはりすごく重要なのはモデルの検証ですよ。これまで、支援してきたものが一体どこに課題があって、次なるステップはどこにあるかがきちんと検証されているのであれば、その検証結果を周知してほしいのです。今おっしゃって

ただいたことはよくわかるし、私も現状はよくわかるので、いいのだと思うのですけれども、結局、誰かがやった後にまた同じようなことが支援として行われていくこともあると思うのです。せつかくやったことを後戻りさせないような、次のものにつなげていけるような検証と発信みたいなものがあると非常にいいのかなという気がしました。

もちろん、やっていらっしゃるといのはわかっていた上なのですけれども、もう一歩、次に行くために、今こそやってきたことを共有して、次なるものにつなげていけたらいい時期なのかなという気がします。

●推進課長

私も、ノウハウ系の輸出で存じ上げている事例が余りないのですが、北方圏の建築技術を生かしたものが一つ大きいものとしてあるかなと思います。

●吉田委員

北海道だと、まだ事例がないかもしれないですね。例えば、道外だと、現地パートナーに日本の経営ノウハウをそのまま伝えていくとか、経営支援まで行っています。いろいろなものが進んではいますが、やはり一番重要なのは現地パートナーだったりするのです。それもやっていらっしゃると思いますけれども、いかに現地パートナーとつながるかということも出てくるかなと思います。本当に、今までやってきたところで、事例の共有があるとすごくいいのかなと思います。

●推進課長

こちらの指摘事項の案の事例の共有に、その組み合わせを少し考えたいと思います。

●蟹江副委員長

今のお話を伺っていると、手続などマインドを醸成するということは、結局、一番問題なのは、輸出しようという会社が余りないところなのではないでしょうか。

●上岡委員

この間も、そんなお話でしたよね。

●推進課長

物に関して言いますと、やはり輸出は、一度、本州の港に横出しして、そこから持っていくという工程が一つ多かたりするのです。ですから、北海道から直接運んでいけるようなコンテナを持っている会社といかに連携するかだと思います。

道内ですと、製麺会社などは自社でコンテナを仕立てられて、直接、ヨーロッパに冷凍コンテナで運ばれたりしていますので、そういうコンテナを共有させてもらうといった議論なんかもさせていただいているのです。では、何を入れるのかというときに、そこにチャレンジしていただける企業がなかなかないという現状ではあるのです。

●蟹江副委員長

手間がかかるから及び腰になっているということなのか、それとも、そもそももう外に向かっていこうという気概がないのか、そこら辺は難しいところですね。手続は大して大変なことではないですよということがわかったら動くというのであれば、そういう

支援でいいのかもしれませんが、そうではないということになるとね。

●推進課長

商品、物に限って言えば、ローカライズとブランディングも海外向けにチューニングしなければいけないものなので、そこにエネルギーとコストがかかるというのも確かなのかなと思うのです。

今はインバウンドブームの中で、目の前にビジネスチャンスが広がっているので、海外に資源を回す余力がないというのが正直なところという企業も多いのかなと思います。

できれば、もう一つ先を見据えて、いろいろチャレンジしていただいて、北海道ブランドを広げることに取り組んでいただけるといいなとは思っていますが、輸出の支援というのは、状況、ニーズ、商品、物、サービスも一社一社で違うので、オーダーメイドな感じで支援をするのです。ですから、共有や流用というのがなかなか難しい部分もあったりするのです。

ただ、吉田委員がご指摘のように、共有することによって、そこから得られる知見を活用できる企業も多いのは確かだと思います。

●吉田委員

私は、もう4年間、食以外のクラフトなどのASEAN諸国へのブランドづくりというか、輸出支援をやっているのですが、実は、どこに向かいたいかというのは経営者次第なのです。たくさん売りたいのか、それとも、ブランドを定着させたいのか、それを自分のビジネスにこういうふうにつなげたいという目標があると進んでいきます。だから、今は、例えば、旭川の染物屋さん、フランスでワークショップをやったり、シンガポールで継続的取引が始まったり、支援の結果はかなり出ています。でも、それはたくさんものを輸出するわけではないのです。

だから、道内企業は、輸出というと、物をとにかく売ろうというふうに勘違いしているところがあるのです。実は、どういうふうに経営していきたいか、どういうブランドをつくりたいかというところを、本当におっしゃるとおり、オーダーメイドで一社一社どこに向かいたいかというようなきめ細かい支援をしていかないとだめなのです。

でも、そういうものだということを周知するだけで変わってくると思うのです。たくさん物売るだけが輸出ではない、企業が永続的に発展していくために、ブランドにもなり得るみたいなどころがあれば、また、変わってくるのかなと思います。

●推進課長

おっしゃるとおりですね。やはり、根っこに自社の製品への強いプライドと北海道ブランドを伝えたいという思いがある会社はうまくいくのかなというのは実感として感じられます。

そういったよい事例の共有という観点で、この文言を少し調整させていただきます。

●吉田委員

そうですね。何のために輸出事業に取り組むかということなのだと思うのです。そ

こが一社一社考えられるような情報共有ができればいいのかなと思います。

●推進課長

ASEANの方々も、皆さんもう目が肥えて、本物でないとなかなか手を伸ばしていただけないのです。

●吉田委員

本当に売れないですよ。世界中のトップブランドが集まっていますので、その中で、幾ら北海道ですと言ったって、もう本当に戦略を立てないと売れないです。

●蟹江副委員長

ほかにはいかがでしょうか。

●吉田委員

もう一つですが、女性社員の活躍応援事業と女性活躍推進関連ですけれども、札幌市はSDGs未来都市ではないですか。これは、まさにSDGsなのですよね。だから、そういうところはこの委員会としても盛り込んではいかがのでしょうか。これからは、企業もSDGsに取り組まないと入社する人がいなくなるだろうと言われておりますので、かなり切実な問題であることは確かなのです。だから、この女性の働き方のところに何か一つ盛り込めると、札幌市としてもいいのではないかと思いました。

●推進課長

では、指摘事項として、SDGsを念頭にというようなことを入れましょうか。

●吉田委員

そうですね。SDGsのことも念頭に置きながらみたいなことが入ると、企業にとっても刺激になるかなという気がします。

●推進担当係長

承知しました。

●蟹江副委員長

ほかにはいかがでしょうか。

4-2の文化財に関してはよろしいでしょうか。

これは特定のものには来訪者もあるけれども、市民でも余り知らないところが結構あるのではないかということから、こういう情報発信という指摘になっているのだと思いますが、これはこんな感じでしょうか。

あとは、特にございませんでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

●蟹江副委員長

それでは、原案としては、先ほどの委員からのご指摘を盛り込んでいただく形でまとめていただきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは、二つ目の議題が終わりまして、三つ目の市民参加の取組(ワークショップ)の結果報告についてお願いいたします。

●推進担当係長

資料3と書かれた資料をごらんいただければと思います。

市民参加ワークショップの概要と、ワークショップの中で主に出されたご意見について、簡単に報告させていただきます。

ワークショップは、8月24日と9月8日の2日間、「子育てと仕事の両立ができる社会～女性がより活躍できる札幌を目指して」というテーマで開催させていただきました。

1回目が31名、2回目が数名の欠席が生まれて28名のご参加で実施いたしました。

2番に、主なご意見を記載しておりますけれども、働き方改革に関するものや、男女共同参画の意識改革に関するご意見、それから、行政によるPRについてのご意見などをいただきました。

市民ワークショップのまとめについては、別途、報告書をおまとめするときに、あわせてご提示することになっております。

ワークショップでは、先ほどの女性活躍推進に関する指摘に通じるご意見などもいただきましたので、反映させていただいたところでございます。

説明は以上となります。

●蟹江副委員長

この件につきまして、何かご質問、ご意見がございましたら、お願いいたします。

私は、残念ながら、今年は2回とも欠席してしまいましたので、様子がわからないのです。

●篠河委員

私も出られなかったのです。

●吉田委員

ちょっとだけ行きました。

●上岡委員

第1回目ですが、私は、多分、吉田委員がお帰りになった後に行ったのです。

●蟹江副委員長

もし何か補足がありましたら。

●吉田委員

私は、前半だったので、余り議論が見られなかったのですが、老若男女取りまぜていらっしゃいましたね。

●推進担当係長

例年よりも幅広い年代の方にお集まりいただきました。

●上岡委員

私は、最後の各班のまとめのところも参加させていただいたのですけれども、皆さん、とにかく発表とまとめ方がすごく上手で、本当に感心したのです。皆さんで模造紙にま

とめるのですが、多分、最初に、模造紙の使い方などについても、レクチャーがあったと思うので、そこでうまく促していただけたのもよかったのだと思うのですけれども、皆さん、堂々と発表されていて、すごくわかりやすかったです。

その中で、すごく印象的だったのは、今回のテーマが「女性がより活躍できる札幌を目指して」ですが、何個もの班で、女性があるとあるけれども、結局、女性が活躍できるということは、市民全員それぞれが活躍できるよねという発想を持ちながら議論していました。ですから、女性が差別を受けてというところだけではなくて、みんながきちんと活躍していこうというような発想から議論されているのがすごく印象的でした。

●蟹江副委員長

これを見ると、毎年、PR不足というか、もっとPRしてはどうですかという意見が出ます。この委員会でも指摘として結構上がりますし、ワークショップでも、やはり広報関係のところに入力してほしいということが出ますね。たしか、去年もあったような気がします。

しているのだけれども、どこに向けてしているかというのは、目的意識があってやっていますから、常に自分のところに向かってくるとは限らないのです。だから、PRを受けていないと見えてしまうケースもあって、なかなか難しいのです。満遍なくというわけにはいかないのですけれども、できるだけ効果的なPRがされるのが全ての部局に対してさらに検討していただければということかなと思います。

そのほか、この件についてよろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

●蟹江副委員長

では、これは終了させていただきます。

次は、4番目です。

●推進担当係長

出資団体ヒアリングの前に、担当部局を入室させていただきますので、少しお待ちいただきたいと思います。

[休 憩]

●蟹江副委員長

今日は、お忙しいところ、どうもありがとうございます。

それでは、議事4番目、出資団体ヒアリングということで、(一財)札幌産業流通振興協会の出資団体としての在り方の検討結果について、まず、事務局からご説明をいただければと思います。よろしくお願ひいたします。

●推進担当係長

これに関しましては、出資団体の所管局であります経済観光局国際経済戦略室から説

明をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

●経済観光局

おはようございます。

経済観光局国際経済戦略室経済戦略推進課長の片岡と申します。どうぞよろしく願いいいたします。

私からは、一般財団法人札幌産業流通振興協会のあり方検討の経緯と、出資継続と結論づけました理由につきまして、お手元の資料4、参考資料に基づいてご説明させていただきます。

まず、当財団の概要でございますが、資料4の1、アクセスサッポロ及び（一財）札幌産業流通振興協会の概要をごらんください。

当財団は、昭和57年に設立された団体であり、主にアクセスサッポロの管理運営による産業流通振興事業を行っております。

現在の基本財産は5,000万円でございまして、このうち、札幌市の出資額は3,000万円、出資割合は60%という状況でございます。

また、本市からの補助金、負担金、委託料といった財政的関与はございません。

なお、アクセスサッポロは、本市出資金と財団法人日本自転車振興会の補助金を主な財源としておりまして、財団が施設を建設し、所有しておりますことから、公の施設ではございません。

右側ですけれども、次に、施設と財団の在り方に関する検討状況でございます。

2020年度の出資団体改革新方針におきまして、財団のあり方や施設保全計画を作成することについて、指摘を受けたのが始まりとなります。

翌2021年度には、アクセスサッポロは、維持すべきであり、財団のあり方につきましては、収支改善の取り組み状況や新公益法人制度への対応を踏まえて継続を検討すると整理したところであります。

その後、平成27年度策定の出資団体の基本方針におきまして、改めて施設と財団のあり方を検討するように指摘を受けました。

平成29年度に、今後、ご説明いたします市内展示機能の在り方調査を実施し、その結果を踏まえまして、30年度に、出資団体改革推進本部会議を開催したところでございます。

それでは、2をごらんください。

2、平成29年度市内展示機能の在り方調査の結果でございます。

調査では、全国の展示産業の動向や市内展示施設の実態、共進会場閉鎖の影響などを調査するとともに、財団の経営分析を行いました。記載のとおり、大きく三つに整理いたしました。

一つ目です。

市内展示機能の過不足状況についてですが、市内各施設は高稼働率であり、新たなイ

ベントニーズに対応できていない可能性があり、また、共進会場の閉鎖に伴いまして、一部の中古車即売会において、機会損失が生じているところでもあります。

このことから、B to Cイベントや中古車即売会を中心に、市内展示機能はやや不足している状況にあると考えられます。

ここで、参考資料をごらんください。

こちらの1、市内主要施設のメイン展示場稼働率でございますけれども、つどーむの96%を筆頭に、きたえーるでは93%、アクセスサッポロでは83%といったように、市内の展示機能を有する施設の稼働率は高い状態であることがおわかりいただけるかと思えます。

すみませんが、資料4にお戻りください。

二つ目です。

市内展示機能の適正規模についてですが、適正規模を考えるに当たりましては、道外需要の取り込みは難しいが、アクセスサッポロの需要は今後も堅調に推移する見通しであること。日ハムの移転に伴いまして、札幌ドームの利活用が求められていること。さらには、市内では、新MICE施設など、展示機能を持つ新たな施設の整備が進んでいることなどを踏まえまして、将来の供給増を想定いたしました適正規模の検討が必要と考えられます。

なお、参考資料の2では、市内展示施設の状況をまとめておりますけれども、2025年度には、約4,000平米の展示機能を持つ新MICE施設が供用開始となる予定でございます。

資料4にお戻りください。

三つ目になります。

アクセスサッポロの利活用の可能性でございます。

財団の財務状況は良好であり、建物も適切な保全を行うことで、長期利用が可能としております。

また、参考資料をごらんください。

3で、財団の経営状況をまとめておりますけれども、左の表、2014年度から2018年度までの売上高と稼働率の推移のとおり、高い稼働率に連動しまして、売上高も増加し続けておりまして、直近では80%以上で推移しております。

また、右の表、2018年度から2031年度までの損益の推移にありますとおり、大規模修繕が見込まれる年度では、正味財産増減益がマイナスになるものの、内部留保によります対応が可能であり、当面は財団による管理運営が可能と推計しております。

一方で、施設は老朽化、陳腐化しておりまして、長期利用か早期更新かを検討すべき時期に来ていることや、新MICE整備などの考慮すべき要因が存在していることから、アクセスサッポロの利活用につきましては、平成29年度の調査結果としましては、市内の展示機能を取り巻く他の施策の動向等を踏まえ、適切な時期に判断するという結論

と一旦はしております。

続きまして、3の施設と財団の在り方についてご説明いたします。

まず、施設の位置づけでございますが、市内で開催されます展示会・見本市の6割以上がアクセスサッポロで開催されておまして、多くの市内企業に商談や情報収集の場として活用いただいていることや、経済波及効果は190億円であることなどから、改めて展示場の必要性を確認しております。

参考資料をご参照ください。

4のイベントカテゴリー別開催施設の状況でございますが、展示会・見本市では6割以上、即売会では5割以上をアクセスサッポロで開催されていることがおわかりいただけるかと思えます。

資料4にお戻りください。

ここまで、展示場が必要な施設だにご説明してきたところでございますが、次は、現アクセスサッポロをどうするかについてでございます。

二つ目の施設更新の検討でございますが、記載のとおり、平成29年度調査から、市内展示機能はやや不足しており、かつ、施設更新を検討すべき時期に差しかかっていると言えます。

また、本市が招致活動を行っております冬季オリンピック・パラリンピックにつきまして、メディアセンターであるIBC、国際放送センターが後利用を想定した施設整備を求められていることや、アクセスサッポロが立地します大谷地流通業務団地では、立地企業の施設更新のための種地確保が求められていることなどから、市内展示機能に影響がある施策の動向等を踏まえながら、2020年度に移転・更新の是非を検討すると整理したところでございます。

次に、三つ目の財団の在り方についてご説明いたします。

冒頭にご説明しましたとおり、財団は、平成21年度に収支改善の取り組み状況などを踏まえて検討すると整理したところでございます。当時と比べた際の大きな状況の変化としましては、高稼働率を背景に売上高が増加しており、財団の経営状況は改善しつつあります。

また、先ほど資料2でもご説明いたしましたが、別に財団が作成しました長期修繕計画をベースとした収支試算の推移を見ましても、財団による施設の管理運営が可能であると考えられます。

さらには、当財団は、産業振興や市民生活の向上に資する展示会やイベントを複数開催しているほか、展示会にかかわる企業同士の交流を定期的に開催するなど、本市産業の活性化に資する自主事業を複数開催し、本市の産業振興にも寄与しているところでございます。

このように、財団は、公共的な役割を担うアクセスサッポロを適正に管理運営しているほか、本市の産業振興施策の補完的役割も果たしていることから、出資の目的が適切

に達成されている状況にあると考えます。引き続き、その役割を果たしていくためには、本市による経営の関与や、減免等による使用料水準の維持といった一定の関与が必要と考えます。

以上のことから、現施設を存続させる間は、財団が管理運営を行い、本市の出資は継続することを結論にしたいと考えております。

説明は以上でございます。

●蟹江副委員長

それでは、今のご説明について、ご質問、ご意見がございましたら、お願いいたします。

●篠河委員

資料1枚目の右下の財団の在り方についてで、経営状況の改善では、「経営状況は改善しつつある」ということですが、過去にはかなり厳しい経営状況があったということでしょうか。

●経済観光局

平成20年度に、財団のあり方や施設保全計画を策定するようという指摘を受けたときに関しては、財団の稼働率はここまで高くなかったため、収入、支出のバランスが現在ほどよくなかったということです。近況を見ると、80%超えの状況になっておりますので、経営は安定して実施していけると考えています。

●篠河委員

直近の決算の正味財産は幾らぐらいになっているか、資料はありますか。

●経済観光局

正味財産の増減額ですか。

●篠河委員

金額で結構です。

●経済観光局

正味財産の金額で言うと、約14億円です。

●篠河委員

わかりました。

●蟹江副委員長

ほかにどうぞ。

●吉田委員

移転という可能性も視野に入っているのですか。

●経済観光局

はい。

●吉田委員

結構広大な場所で、いい場所にあるのかなと思ったのですが、どういうところ

から移転ということが出ているのでしょうか。

●**経済観光局**

まず、移転ありきではございません。2020年度に調査させていただくように予算要求をしておりますので、これからどれだけの需要があるかということかと思えます。

アクセスサッポロに関しましては、ある程度、手狭感がございます。ただ、それも、いろいろな外部環境といいますか、札幌ドームもどうなるか、日ハムのボールパーク等々ございますので、それを全部精査した上で、今のキャパではなかなか難しいとなれば、移転ということも考えられるというのが1点ございます。

あとは、大きな施策になりますので、我々のイニシアチブで動けるかどうかという話にはならないのですが、若干ご説明しましたように、オリパラの誘致の中でIBCがどうしても必要です。IBCという施設は、大きい箱なのです。という、本市の施策の中では一番似通っているのは、展示機能のある施設であるのかなということがございますので、ゼロベースではありますが、共進会場への移転も視野に入れながら、しっかり考えていかなければならないと思っています。

●**蟹江副委員長**

ほかはいかがですか。

●**吉田委員**

もう一つ、検討メンバーですが、どういうメンバーで検討されますか。

●**経済観光局**

まだ、検討メンバーまでは考えておりません。市内の展示機能のための必要な面積はどれほどあるのか、そこがスタートになりますので、今と変わらなくていいではないかとなってくれば、現地建てかえも含めての総体での検討になります。検討委員会ということより、まずしっかりと調査したいというのが2020年度の計画でございます。

●**蟹江副委員長**

これは設備の老朽化の問題、耐震基準など、いろいろあると思いますが、この点は今のところ特に問題はないということですか。

●**経済観光局**

耐震については、問題ありません。

老朽化については、もちろんもう35年以上経過してきているので、今後、修繕費がたくさん増えていくことは想定されています。

●**蟹江副委員長**

移転については、そういうことも含めて検討されるということですね。

●**経済観光局**

そうですね。メリット・デメリットをしっかりと見きわめて考えていきたいと思っています。

●蟹江副委員長

ほかに、確認事項があればお願いします。

●篠河委員

もし移転するとしたら、冬季オリパラIBCの有力な候補地がアクセスサッポロの後地という位置づけになっているのですか。

●経済観光局

冬季オリパラのメディアに対して、立地的なメリットがあるかという観点でいくと、例えば、共進会場跡地が候補になろうかと思います。そうなりますと、私どものイニシアチブで動ける話にならないものですから、それは内部、庁内でしっかり合意形成をしながら決めていくことと、我々が必要とする平米数をしっかり把握することの2点かなと思っております。

●蟹江副委員長

よろしいですか。

(「なし」と発言する者あり)

●蟹江副委員長

それでは、今日のご説明を承りましたので、これをもとに検討させていただきます。どうもありがとうございました。

●推進担当係長

職員が退室させていただきますので、少しお待ちいただければと思います。

[休 憩]

●蟹江副委員長

今の説明はいかがでしたか。

●吉田委員

2020年から2022年の検討が物すごく重要だなと思います。やはり、アクセスサッポロがどうのというよりは、この次のページにあるドームの今後の活用方法など全体を見きわめて、それこそ、オリパラの招致や、札幌のあらゆる未来にかかわってくるような検討になるのだなと今お聞きしながら思ったのです。

この2020年の調査からとおっしゃっていたところを、誰がどのような観点で調査するのか、その調査結果を誰がどのような観点で将来どうするかを決めていくのが肝ではないかと思います。決まってしまうと、もうなかなか変わっていけないので、そこにどういうメンバーで、本当にオール札幌で考えられるような調査検討にさせていただきたいというのが市民としての願いでもあります。

この行政評価委員会でも、一個一個のものをどうするかを検討していったら、何でもここがもっと連携していなかったのかしらみたいところがいっぱいあったと思うのです。

今こそ、未来の札幌像を考えて、それに即したすばらしい施設を残していくか、どうしていくかを考えていけたらいい時期かなと思いましたが、そこは非常に期待しております。

●**上岡委員**

必要面積の調査というお話がありましたけれども、それは平成29年度のあり方調査の中でもかなりされているのかなという印象もあったので、さらなる調査というのはどこに重きを置くのかなと少し思ったのです。

●**吉田委員**

私も気になったのがそこで、何のために調査するかが決まっていない調査は、もったいないのではないかと思います。

●**推進担当係長**

今の想定では、平成29年度の展示機能調査によって、市内展示機能が多少不足するという結果を踏まえた上で、利用状況や今度の展示会の需要、今後予定される供給増などを、少し時間がたっているので、改めて調査検討して、必要と考えられる展示面積などを算出したいと考えております。そして、増床になった場合には、新施設に求められる規模や機能、整備地等の検討などを行うと一旦は考えているようではあります。

●**吉田委員**

しようがないのかもしれないのですけれども、どうありたいかというものをある程度想定しないと、有効な調査はできないのではないかと思います。

●**推進課長**

今は、幅広にいろいろなパターンに備えて準備しているという状況ではあります。

アクセスサッポロ自体は、今、説明がありましたように、展示会場として非常にニーズも高い状況が続いていますので、無理に閉じる必要はないのではないかという議論ももちろんございます。一方では、施設自体が陳腐化している部分もございますから、建てかえの時期を見据えてどこにどう持っていくのかという検討もしなければなりません。

●**蟹江副委員長**

これは札幌市が6割出資しているということですが、札幌市が出資を引き揚げてしまったら、もう存続が難しいという感じなのではないでしょうか。それとも、どこかその分を引き受ける民間の資本があり得るのでしょうか。

●**推進課長**

出資比率自体を下げることは可能ですけれども、そうなると、札幌市との関係性が薄れていく段階で、自走ができるかどうかというのは、慎重に検討しなければいけないかなと思います。

今のニーズのままであれば、自走は可能というふうに見えますけれども、建物自体の寿命も見えてきている中ですから、それがいつまで続くものなのかというのはあります。

●蟹江副委員長

逆に言えば、今、こういう形で札幌市が関与していることが札幌市にとってメリットがあるべきかもしれませんね。

●推進課長

展示会・見本市に適した場所については、会場の面積自体はあっても、あれだけの駐車場がある会場が非常に少ないのです。

●吉田委員

今、あそこがなくなることは、やはり産業界にとっても厳しいですね。今週もビジネスEXPOがありますが、では、あれをほかにどこでできますかということ、本当に難しいです。展示会のあり方自体も変わっていくだろうということはあるけれども、ここをなくす、なくさないという議論ではもうないですよ。札幌として、全ての施設をどういうふう考えていくのかということなのでしょう。

●上岡委員

だから、やはりいろいろな施設との兼ね合いも含めて考えていく全市的な視点が必要ということになると、市の関与を今の時期に弱めるという発想にはなりにくいのかなと思います。

●吉田委員

札幌ドームをどうしていくかという議論とも結びついていくことになりますよね。逆に言うと、ドームを展示会にもっと使う可能性も出てくるとなれば、アクセスサッポロはどういう役割を担うのか、本当におっしゃるとおりで、まだまだもやの中にあるものを、今、札幌としてどうしていくかを考えていかなければならないですよ。

●蟹江副委員長

いずれにしても、この施設の必要性については、疑いの余地はないですね。今後どうあるべきかということについては、これからの検討になっていますので、そうすると、この結論として、当面、維持、継続するという結論は妥当ということなのでしょう。

ただ、石井委員長の確認をとってからになりますね。

●吉田委員

ぜひ、検討するときに、札幌の未来をきちんと見きわめられるメンバーを、みんな集まって聞きながら、オール札幌で考えてくださいというような指摘にしてもらえるといいのかなと思います。

●推進課長

それは、札幌市役所だけではなくてということですね。

●吉田委員

そうですね。どういうまちにしていくのかを、まさに、市長を中心に考えていただいたらいいのかなと思います。

●推進課長

市民議論という言葉を入れましょうか。

●蟹江副委員長

そんなところでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

●蟹江副委員長

では、一旦、石井委員長の意見も聞いていただいた上で、原案をまとめていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

そうしましたら、準備していただいた議事につきましては以上ですけれども、その他、何かございましたらお願いいたします。

●推進担当係長

今後の流れについて簡単に確認させていただきます。

本日は、指摘事項案のご確認をいただきました。ご議論いただいた視点を取り入れるなどして、修正した案をメールでご確認いただいた上で、次回、第4回には最終の報告書に近い形で指摘案の整理を進めさせていただく方向で考えております。

また、出資団体の件に関しましても、今、委員の方々の中でご議論いただきましたけれども、石井委員長がご不在でしたので、別途、今日のお話を踏まえた上でのご意見をご確認させていただいた上で、あわせて指摘の評価の原案をまとめていきたいと考えております。今回は、そのように進めさせていただければと考えています。

第4回の日程につきましては、今、皆様にちょうど日程調整をさせていただいているところです。12月中旬ごろということで、決まり次第、ご連絡させていただければと考えております。以上です。

●蟹江副委員長

それでは、最初に、議題1で今後のスケジュールの仮として上がっておりました再ヒアリングは、実施しないということでよろしいですね。

(「異議なし」と発言する者あり)

●蟹江副委員長

この際、何かほかにも委員の先生方からございますか。

(「なし」と発言する者あり)

3. 閉 会

●蟹江副委員長

それでは、特にないようですので、以上をもちまして、第3回行政評価委員会を終了させていただきます。

どうもありがとうございました。

以 上